

組合士 アラカルト

佐久トラックセンター協同組合

事務局長

須田 紀男さん

八面六臂の民間出身組合士

組合運営のプロである組合士の多くは、組合に長く奉職して培ってきた経験とノウハウの蓄積に基づいて資格を取得されている方々である。また一方で、組合以外での実務経験やノウハウも持ち、それを組合職員としての経験・ノウハウに加味することで独自の組合運営の工夫を進めている「民間出身組合士」もいらっしやる。

今回お話を伺った、佐久トラックセンター協同組合の須田紀男事務局長もそのような組合士のお一人である。

佐久トラックセンター協同組合とは

須田さんの民間企業実務経験に基づく組合運営の工夫のあれこれを紹介する前に、その奉職されている佐久トラックセンター協同組合の概要について触れておこう。

同組合の設立は昭和44年。今年で満40周年を迎える組合である。現在の組合員は10社、南北に長い長野県の東端、小諸市・東御市・軽井沢町・御代田町・佐久市・小海町・川上村・南牧村からなる佐久エリアに所在する運送業者で構成されている。組合事業の一つである共同輸送

事業により、県内の他の6同業組合はもちろん、全国の同業組合等とのネットワークを持ち、全国各地へと貨物を取り次ぎ、配送している組合である。運ぶ荷物も様々であるが、春から夏、そして秋にかけては信州高原野菜が主要な取扱品の一つになるといえるのは、佐久地区ならではの経験かもしれない。

組合と協議会が「コラボ」して展開

組合主要事業には、ETCを利用した高速別納事業や燃料共同購入、転貸（銀行より借入を行い、組合員へ融資する）、保険取扱などがある。組合員各社の規模は従業員数で10〜20名前後、保有トラック台数もほぼ同様で、けっして規模が大きいとはいえないことから、「集まることでメリットを互いに享受できることや、1社単位ではできないこと」を実現するような組合事業の展開、運営に当たってきているのである。

また、同組合は一昨年から、組合員も所属する佐久地区輸送協議会が建築・保有する敷地1000坪のトラック会館に移転、同協議会から会館の管理運営を委託されている。そこで、組合事務局は

上述の組合各種事業はもちろん、協議会が主催する物流セミナーなどの研修事業についても、その企画から実施までを担当しているが、実は、事務局職員は須田さんとフルタイムのパート女性職員の2人だけなので、「まるで二束の草鞋を履いているような状況」の忙しさである。

そんな中でも、10月13日の「佐久地区トラックの日」には組合と協議会が連携してトラックイベントを開催、普段なかなか接することのない近隣住民ら4000人の参加を得て、最新型トラック試乗や高所作業の披露などを行い、トラック運送業を身近に感じてもらう機会を提供している。

実務経験活かし、さらに組合員のために

文字通り、八面六臂の活躍を見せる組合事務局、須田さんだが、さらに「ほぼ同じ時期に組合と協議会の決算と総会に対応している」という。それを可能にしているのは、「大手工作機械メーカーの地元工場に勤務して経理企画畑を長年経験してきたこと」だとのこと。

「それまで特に中小企業組合との接点があったわけでない」須田さんが同組合

に奉職したのは平成5年。その5年後には組合士資格を取得している。「試験科目としての制度・運営・会計はもちろん、日常の業務にしても、組合独特の部分もあるけれど、これまでやってきたことに加味して応用していけば、なんとかなるものです」と、須田さんはいったって冷静であるが、たとえば組合の経理情報いち早くデータ化するなど、その組合運営にはやはり民間企業で培ってきた経理企画の実務経験とノウハウの蓄積が大きくものをいっていると拝察した。

組合では月に一度は理事会を開催するなど組合員間のコミュニケーションや情報交換を密にすることに気を配っているというが、それに加えて今後は、「1社単位では取り組みにくい従業員教育や事故防止対策、あるいは仕事の提供などに組合としてできるだけのサポートを行い、組合員各社に安全と安心の輸送体制を作り上げてもらえるよう、取り組んでいきたい」とのこと。そのために「さらにマールチな働きができる事務局を目指したいですね」。お顔も口調も穏やかながら、須田さんの静かに燃えるガッツが伝わってきた。

